



MRI 安全性の考え方 第3版



監修：日本磁気共鳴医学会
安全性評価委員会

発行：学研メディカル秀潤社

2021年5月刊行
B5判・328ページ
定価：6,050円（10%税込）

MRI検査を行う時、臨床的な必要性については当該診療科で十分説明されており、患者の理解を得ることはさほど困難ではない。しかしながら、説明するのは受診した診療科の医師なので、必要性は熟知していても、当然ながら有害事象に関する知識は少ない。よく遭遇する体内インプラントにしても、デバイスの種類や磁場強度による有害事象の差についての説明は難しい。MRIを受ける際の説明書やビデオによる解説を受けても、患者の理解が困難なことが多い。患者から安全性に関して様々な質問が当該診療科で投げかけられるが、適確な説明に難渋することが多く、MRI室、読影室に問い合わせがくることになる。

MRI現場の医師、診療放射線技師、看護師に回答が求められるが、質問はMRIを受ける際の注意点に加えて造影剤や併用薬など多岐にわたり、慣れている現場でも回答に苦慮することがある。またMRIの急速な進歩により、この回答で国際規格に適合しているのか？と不安になることも稀ではない。

本書ではこのような診療現場で役立つ安全管理の

知識について、幅広くまた理論的な背景を含めてわかりやすく解説されており、疑問点に簡単にアクセスして解決に導いてくれる。

MRIを安全に運用するために認証基準が定められており、設置後にハードやソフトウェアの追加を行った場合には、法律に基づく対応が必要となる。メーカーが提供するものだけではなく、ユーザーが独自に開発したハード、ソフトを用いることも多く、関係法令の守備範囲と市販後安全対策の仕組み、その限界を理解する必要がある。しかし、多くの医療関係者は法令には馴染みが少なく、つついメーカー任せになりがちである。このような点についても、本書では実例も挙げてわかりやすく記載されており、大変助かる内容である。

安全な検査に対する最新知識を得ていくことは、きわめて重要である。このような視点から、日本磁気共鳴医学会の安全性評価委員会より、『MRI安全性の考え方』第1版が2010年に出版され、2014年の改訂に引き続き、この度、急速なMRIの進歩に対応して最新の国際規格に沿って改訂した第3版が上程された。

MRIを撮像する技師、検査を担当する医師達にとって、多忙な診療現場で安全な検査を行うために、是非MRI室に設置すべき標準図書である。またMRI検査を担当したり、MRIを用いた研究を行っている医療関係者には、MRIの物理的、生物学的、また関係法令についての基本的知識とともに最新の知識を得るため、通読すべき専門書として購入されることを強く推薦する。

日本磁気共鳴医学会 元会長
神戸大学 名誉教授（放射線医学）

杉村和朗

